総合計画審議会及び総務常任委員会所管事務調査における意見等の対応

令和4年6月28日	
第3回総合計画審議会	
資料	No. 1

■ 5月31日開催の第2回上越市総合計画審議会及び会議後に聴取した委員の意見等とあわせ、6月13日開催の市議会総務常任委員会の所管事務調査における議員の意見等について、以下のとおり今後の対応や検討の方向性等を整理した。

No.	項目 【第2回資料No.】		出所	意見等の内容	今後の対応、検討の方向性等
1	まちづくりに込める想い（基本理念） 【資料No.3】		第2回審議会会議後の意見	・「上越らしさ」という部分、特に「雪」に関する内容が薄いように感じられる。	・「上越らしさ」は、市民意見交換会やグループインタビュー等を通じて、市民から聴取した意見を踏まえ、世代を超えて受け継ぎ、今後も大切にしていきたいまちの価値として3つにまとめたものである。 ・「雪」に関する様々な思いについても、市民からいただいており、それを踏まえ、「上越らしさ」中の「自然との共生」において雪国や自然の畏怖や恵みをもたらすものとして、また「共助の精神」において雁木に象徴される雪国の暮らしについて、それぞれ記載している。 ・今後、計画の本冊子において「上越らしさ」を記載する際には、説明を充実させることを検討する。
2				・「上越市ならではの」ではなく、「上越市らしい」の方が自然環境や人々とのつながりを感じさせる表現ではないか。	・「上越らしさ」を受け継ぐ中で、市民が安心感や幸福感、満足感を得られている状態が創られ、次代に引き継がれていく、そのような理想的な暮らしの状態を「上越市ならでは」と表現しており、原案のままとする。 **※詳細は、第3回資料No.3のとおり**
3			議会所管事務調査	・「上越市ならでは」を「唯一、無二」という意味で使用しているのか。	
4		バックキャスティングの考え方	第2回審議会における意見	2040年のありたい姿の実現に向け、2030年までにどこまでまちを充実させるのかという方向性が見えないと市民にとって分かりづらいのではないか。	・2040年のありたい姿の実現に向け、まずは2030年までに、生活の質を着実に高めていくとともに、若者が希望をもって暮らしていけるためのまちづくりに取り組むこととしている。そのことを今後の政策・施策の取組において明記していく。 **※詳細は、第3回資料No.4のとおり**
5			第2回審議会会議後の意見	・2040年からのバックキャスティングについて、2040年という設定の理由について分かりやすい説明が必要である。	・今後、人口減少の更なる進行や、社会全体のデジタル化や脱炭素の取組の加速など、社会経済環境の変化が急速に進むことが想定される。 ・特に、「2040年問題」として、団塊ジュニア世代が2040年頃に65歳以上を迎え、全国的に高齢者人口が最大となり、当市においても、高齢者数が減少に転じる中で、高齢化率が約4割まで高まるなど、人口構造が大きく変化していく。 ・さらに、2040年頃には、老朽化したインフラや公共施設の大幅な増加、中山間地域の人口の低密度化や集落機能の低下、さらには現役世代（20～65才）の急減に伴う産業全体の労働力不足など、各分野の課題が一層深刻化することが懸念される。 ・こうした中、持続可能なまちを目指す上で、未来を見据え、長期的かつ確かな展望をもってまちづくりを進めていくことが必要と考え、2040年の理想の姿を描くこととしたものである。
6			議会所管事務調査	・計画策定にあたり、バックキャスティングの手法を採用した経緯は。 ・2040年のありたい姿とSDGsの関連性はあるか。総計にSDGsの目標を反映してほしい。	・No.5に記載のとおり、持続可能なまちを目指す上で、長期的かつ確かな展望をもったまちづくりを進めていくことが必要と考え、バックキャスティングの考えを採用したもの。 ・SDGsの目標年限が総合計画の計画期間となる2030年と重なるため、今後、具体的な政策・施策を検討する中でSDGsの関連性を示していく。
7				・2040年のありたい姿を具体にイメージすることは困難であるが、どんな事態にも適応できる対応力を備える必要がある。	・当市の豊かさを守り、発展させていくという考えの下、将来都市像は、暮らしやすさを「守る」こと、チャレンジ・活躍できる環境をつくり、希望あふれるまちにするといった「攻め」の姿勢を表現したところ。

No.	項目 【第2回資料No.】	出所	意見等の内容	今後の対応、検討の方向性等
8	将来都市像 【資料No.4】	第2回審議会における意見	・将来都市像の内容が漠然としており、市民に対するメッセージ性が乏しく感じる。危機感を伝え、必死で取り組んでいくという姿勢がわかるようなメッセージを明確に出してほしい。	・将来都市像は、施策推進のためのスローガンではなく、市民のまちづくりに込める想いとして、2040年のありたい姿のキーワードをまとめた「上越市ならではの快適で幸せな暮らし」の実現に向けた、2030年時点の目標とする姿として設定したものである。 ・多くの市民の想いを包含し、また、市の政策全般の取組の方向性を網羅するものを検討した結果、今回は普遍的な姿として表現することが適当と考えたところ。 ・これまでの累次の総合計画においても、時代の潮流を捉える中で、同様の考え方で設定している。 【過去の計画の将来都市像】 ※平成以降 第4次総合計画： みどりの生活快適都市・上越 第5次総合計画： みんなで創る元気都市・上越 〃（改訂版） ： 海に山に大地に 学びと出会いが織りなす共生・創造都市 上越 第6次総合計画： すこやかなまち 人と地域が輝く上越 ・今後、政策・施策ごとに「ありたい姿」又は目指す方向性を具体化し、計画に明記するものとする。 ・また、「暮らしやすく」と「希望あふれる」がどのように政策・施策の展開につながり、重要課題である人口減少対策に寄与していくか、考え方や取組方向を示していく。 ・なお、将来都市像にも、副題を入れることを検討し、共感やイメージを持ちやすいものとなるよう工夫する。 **※第3回資料No.3、4のとおり**
9			・子育て世代に特化した街づくりで、移住者を増やす。企業と連携をして、女性が働きやすい職場づくりに力を入れるなど、何かに特化したまちづくりをすべき。	
10		第2回審議会会議後の意見	・将来都市像は、抽象的すぎる印象である。例えば「日本一住みたいまち」とすれば、この後に続くアクションが浮かび易く、「らしさ」の解釈が人によって差が生じることを避けるためにも具体性を持った表現を取り入れるべき。	
11			・全体的に漠然としていて内容が掴めない。現段階ではどういうまちにしていくという目標があまり掴めない。	
12			・基本理念、将来都市像は抽象的であるため、「〇〇するなら上越市」のようなアピールポイントを考えていく必要がある。	
13			・総合計画の役割からは、厳しい切り口や予測はそぐわないと考える。しかしながら、現実的な人口減少などの課題を捉え、そのうえで、上越市が快適で幸せな暮らしを目指すこと、暮らしやすく希望あふれるまちを実現していくことが市民に分かりやすく語られることが望ましいと考える。	
14			・「地球を終わらせない」といった、分かりやすいキャッチフレーズが求められているのではないか。	
15			・将来都市像（案）について、市民の皆さんに分かりやすく、誰でも理解出来るようにイラストなどでしてはどうか。	
16		第2回審議会における意見	・「希望あふれる上越市」とはなぜ必要で、どのようなものなのかなど、もっとわかりやすく論述するとよい。	・急速に進む少子高齢化や人口減少、自然災害の頻発化・激甚化など、前例や経験則が通用しない局面を迎え、変えてはいけないものは守り維持しつつ、柔軟な発想と勇気をもって前に進み続けることが必要である。 ・こうした認識の下、「暮らしやすく」に込めた意味は、市民がつながり、支え合うことを通じて、心身や経済的な安定を満たされ、生活の質が向上している状態を表すものであり、一方、「希望あふれる」は、地域を支える人づくりが進み、地域の魅力の最大化や、将来を担う若者の希望がかなう環境づくりが図られている状態を目指すものである。
17		第2回審議会会議後の意見	・第6次総合計画と類似しているとの考えもあるが、上越市の進む方向は大きく変わるわけでもなく、ほとんど同じ方向と思われる。その時の重点項目の表現が違うだけだと思う。「希望あふれるまち」の表現は賛成。	・第6次総合計画と第7次総合計画の「将来都市像」は、いずれも市民をまちづくりの中心に据え、人と地域のつながりを重視するとともに、普遍的な安心感、幸福感、満足感を高めていくという点では共通している。 ・第7次総合計画では、これらに加え、全ての人が活躍・挑戦できる環境を整え、地域の魅力の最大化を通じて、若者が帰ってきたくなるような地域にしたいという想いを「希望あふれる」という言葉で表現したもの。

No.	項目 【第2回資料No.】	出所	意見等の内容	今後の対応、検討の方向性等
18	策定の進め方 （市民意見の反映）	第2回審議会会議後の意見	・若者や女性の意見を計画に取り入れるべき。	・これまでに実施した、グループインタビューやまちづくり市民意見交換会において、若者や女性からも参加いただき、意見聴取を行った。 ・また、ウェブを介して市民意見を聴取しているほか、別途、若者や子育て世代、移住団体等と意見交換する場を設けるなど、今後も丁寧に意見を聴取していく。
19			・若者の意見を反映してもらいたい。	
20		議会所管事務調査	・意見交換会等では得られない、「声にならない声」も取り入れてもらいたい。	
21			・市外に転出した人や市内に移住を考えている人から意見を聞く考えはあるか。	
22			・若い世代は、未来をあきらめておらず、社会の課題解決に前向きである。高校生・大学生ワークショップは、意見を聞いて終わりにせず、事業に反映してもらいたい。	・8月に高校生・大学生ワークショップの開催を予定している。1グループ4～5人程度で10年・20年後の上越市を話し合いながら、未来へ向けた取組をまとめていきたいと考えている。 ・内容を精査した上で、基本計画への反映を検討していく。
23	今後の具体的な取組	第2回審議会における意見	・市内の地区別の人口の推移を予測した上でこれからの上越市がどのような行政サービスができるかということを具体的に盛り込んでいく必要があるのではないか。	・今後の審議事項となる基本計画において、具体的な対応等を検討する。 **※市内の地区別人口の推移の詳細は、参考資料№1のとおり**
24			・中山間地の課題は農林水産分野だけのものでない。ありたい姿である地域の暮らしと文化を継承する具体策（めざす計画）が今後の議論で必要となる。	・今後の審議事項となる基本計画において、具体的な対応等を検討する。
25			・魅力のPRなど、情報発信を強化するべき。	・総合計画審議会のほか、まちづくり市民意見交換会やグループインタビューにおいても、地域の魅力の創造や発掘とともに、情報発信の強化が必要との意見をいただいており、今後の審議事項となる基本計画において、具体的な対応等を検討する。
26		第2回審議会会議後の意見	・専門性を持った大学ではなく、普通レベルの大学が必要。大学と企業の誘致が必要。	・今後の審議事項となる基本計画において、具体的な対応等を検討する。
27			・今後の経済・社会保障を支える若い世代の働きやすい環境を整えることが急務であると感じた。	
28			・短期的には人口移動の移住先競争に勝つしか方法はなく、それよりも外国人の受け入れ先として確実に準備していくことが地域発展には大切。	
29			・新幹線駅を持つまちの特性を活かした「上越妙高駅に降りてみたい」と思わせる駅周辺環境の整備が大切。	
30		議会所管事務調査	・今ある課題の解決方法についての記載が乏しい。	
31			・防災分野のありたい姿について、最悪を想定したありたい姿を検討してほしい。 ・農林水産分野は、国政の展開との関係性を意識して評価・検証を振り返ってほしい。	
32			・デジタル関係の専門家の意見をより積極的に取り入れて欲しい。	・Society5.0、グリーン社会の実現など社会の潮流を捉え、専門的な知見が必要な重要な課題について、具体的な取組を検討する際には、必要に応じて、大学教授や民間シンクタンク等の専門家にヒアリングを行うことを想定している。